

【1】 名称類似に関する事例

はじめに

医薬品の販売名の中には、名称が類似しているものがあり、それらの間での薬剤取り違えの事例が報告されている。特に、薬効が異なる薬剤と取り違えた場合や、ハイリスク薬を取り違えた場合は医療事故につながる可能性がある。

本事業では、平成21年年報より、名称類似に関する事例を分析テーマとして取り上げ、継続して分析を行っている。

1. 名称類似に関する事例の考え方

本年報では、報告されたヒヤリ・ハット事例のうち、報告入力項目の「調剤」の「事例の内容」の項目で「薬剤取違え」が選択されていた事例について、医薬品名の頭文字が2文字以上一致している事例の集計を行った。

また、頭文字が2文字以上一致している事例以外で、報告された事例の記述部分に、販売名が類似していることにより薬剤を取り違えた、またはそのことが疑われる内容が記載されていた事例をその他の事例とし、併せて集計を行った。

なお、本分析において、医薬品名はブランド名別に集計した。また、一般的名称に屋号が付されている後発医薬品については一般的名称別に、漢方製剤については屋号と剤形を除いた漢方製剤名別に集計した。

2. 報告件数

2017年の報告件数および報告事例の「発生場面」、「実施の有無」を集計し、以下に示す。

図表Ⅲ－1－1 報告件数

	件 数				
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
ヒヤリ・ハット事例	5,820 (100.0%)	5,399 (100.0%)	4,779 (100.0%)	4,939 (100.0%)	6,084 (100.0%)
「薬剤取違い」の事例	893 (15.3%)	817 (15.1%)	776 (16.2%)	740 (15.0%)	591 (9.7%)
名称類似に関する事例	227 (3.9%)	246 (4.6%)	211 (4.4%)	166 (3.4%)	147 (2.4%)
頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例	208 (3.6%)	215 (4.0%)	193 (4.0%)	139 (2.8%)	118 (1.9%)
その他の事例	19 (0.3%)	31 (0.6%)	18 (0.4%)	27 (0.5%)	29 (0.5%)

図表Ⅲ－1－2 発生場面

発生場面	頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例	その他の事例	合 計
内服薬調剤	76	27	103
外用薬調剤	21	2	23
注射薬調剤	15	0	15
その他の調剤に関する場面	6	0	6
合 計	118	29	147

図表Ⅲ－1－3 実施の有無

実施の有無	頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例	その他の事例	合 計
実施あり	55	12	67
実施なし	63	17	80
合 計	118	29	147

Ⅲ

【1】

【2】

【3】

【4】

【5】

名称類似に関する事例

3. 名称類似に関する事例の分析

1) 頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例の分析

2017年に報告された「薬剤取違い」に関する事例の中で、頭文字が2文字以上一致している薬剤と取り違えた事例118件の主な薬効の相違について集計した。

図表Ⅲ-1-4 頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例

主な薬効の相違	件数
主な薬効が異なる組み合わせの事例	17 (14.4%)
主な薬効が同じ組み合わせの事例	91 (77.1%)
漢方製剤*	10 (8.5%)
合計	118 (100.0%)

(注) 眼科用剤は、各薬剤の効能、効果をもとに分類した。

※ 漢方製剤はいずれも主な薬効が「漢方製剤」であるが、実際にはそれぞれ効能、効果が異なるため「漢方製剤」として分類した。

次に、主な薬効が異なる薬剤の組み合わせを示す。

図表Ⅲ－１－５ 主な薬効が異なる薬剤の組み合わせ（頭文字2文字以上一致）

ブランド名または 一般的名称	主な薬効	ブランド名または 一般的名称	主な薬効
内服薬			
アテノロール	不整脈用剤	アテレック	血圧降下剤
クロピドグレル	その他の血液・ 体液用薬	クロルマジノン酢酸エステル	卵胞ホルモン及び 黄体ホルモン剤
セレクトール	血圧降下剤	セレコックス	解熱鎮痛消炎剤
ノイロトロピン	解熱鎮痛消炎剤	ノイロビタン	混合ビタミン剤 (ビタミンA・D 混合製剤を除く。)
ベタキソロール塩酸塩	血圧降下剤	ベタヒスチンメシル酸塩	鎮暈剤
プラザキサ	血液凝固阻止剤	プラビックス	その他の血液・ 体液用薬
ムコスタ	消化性潰瘍用剤	ムコソルバン	去たん剤
ロキシシロマイシン	主としてグラム陽 性菌、マイコプラ ズマに作用するも の	ロキソプロフェン	解熱鎮痛消炎剤
外用薬			
レボカバステチン塩酸塩（点眼）※	眼科用剤	レボフロキサシン（点眼）※	眼科用剤

（注）主な薬剤の組み合わせについて図表に示した。

※ 外用薬は、剤形を追記した。

主な薬効が同じで、成分が異なる薬剤の組み合わせと漢方製剤の組み合わせを示す。

図表Ⅲ－1－6 主な薬効が同じで成分が異なる薬剤の組み合わせ（頭文字2文字以上一致）

ブランド名または 一般的名称	ブランド名または 一般的名称
内服薬	
ジャディアンズ	ジャヌビア
セフカペンピボキシル塩酸塩	セフジトレンピボキシル
セフカペンピボキシル塩酸塩	セフゾン
ニトロペン舌下	ニトロール
ビオフェルミン	ビオスリー
ボノサップ	ボノピオン
外用薬	
タプコム（点眼）※ ¹	タプロス（点眼）※ ¹
デルモゾール（ローション）※ ¹	デルモゾールG（ローション）※ ¹
デルモゾールG（ローション）※ ¹	デルモベート（スカルプローション）※ ¹
リンデロン-V（軟膏）※ ¹	リンデロン-VG（軟膏）※ ¹
リンデロン-V（ローション）※ ¹	リンデロン-VG（ローション）※ ¹
注射薬	
ノボラピッド	ノボラピッド30ミックス※ ²
ノボリンR※ ²	ノボリン30R※ ²
ヒューマログ	ヒューマログミックス50※ ²

※¹ 外用薬は、剤形を追記した。

※² 組成の違いを示すためにブランド名に組成を付した。

図表Ⅲ－1－7 漢方製剤の組み合わせ（頭文字2文字以上一致）

漢方製剤名	漢方製剤名
加味帰脾湯	加味逍遙散
桂枝加芍薬大黃湯	桂枝加芍薬湯
桂枝茯苓丸	桂枝茯苓丸加薏苡仁
柴胡桂枝湯	柴胡桂枝乾姜湯
小柴胡湯	小柴胡湯加桔梗石膏
半夏厚朴湯	半夏瀉心湯
抑肝散	抑肝散加陳皮半夏

（注）漢方製剤はいずれも主な薬効が「漢方製剤」であるが、実際にはそれぞれ効能、効果が異なる。

2) その他の事例の分析

「薬剤取違い」の事例591件から、頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例118件を除いた473件のうち、報告された事例の記述部分に、販売名が類似していることにより薬剤を取り違えた、またはそのことが疑われる内容が記載されていた事例（その他の事例）29件の主な薬効の相違について集計した。

図表Ⅲ-1-8 その他の事例

主な薬効の相違	件数
主な薬効が異なる組み合わせの事例	9 (31.0%)
主な薬効が同じ組み合わせの事例	16 (55.2%)
漢方製剤*の事例	4 (13.8%)
合計	29 (100.0%)

(注) 眼科用剤は、各薬剤の効能、効果をもとに分類した。

* 漢方製剤はいずれも主な薬効が「漢方製剤」であるが、実際にはそれぞれ効能、効果が異なるため「漢方製剤」として分類した。

次に、主な薬効が異なる薬剤の組み合わせを示す。

図表Ⅲ-1-9 主な薬効が異なる薬剤の組み合わせ（その他）

ブランド名または 一般的名称	主な薬効	ブランド名または 一般的名称	主な薬効
内服薬			
アイトロール	血管拡張剤	アフロクアロン	鎮けい剤
タナトリル	血圧降下剤	タリオン	その他のアレルギー用薬
タモキシフェン	その他の腫瘍用薬	ラロキシフェン塩酸塩	他に分類されない代謝性医薬品
テオドール	気管支拡張剤	テグレートール	抗てんかん剤
トニール	気管支拡張剤	トフラニール	精神神経用剤
トラマール	解熱鎮痛消炎剤	トレリーフ	抗パーキンソン剤
S・M配合	健胃消化剤	S G 配合	解熱鎮痛消炎剤
外用薬			
リンデロン 点眼・点耳・点鼻液0.1% ^{※1,2}	眼科用剤	点眼・点鼻用 リンデロンA液 ^{※1,2}	眼科用剤

※1 眼科用剤は、各薬剤の効能、効果をもとに分類した。

※2 名称の違いを示すため、販売名を記載した。

主な薬効が同じで成分が異なる薬剤の組み合わせと漢方製剤の組み合わせを示す。

図表Ⅲ-1-10 主な薬効が同じで成分が異なる薬剤の組み合わせ（その他）

ブランド名または一般的名称	ブランド名または一般的名称
内服薬	
アトルバスタチン	プラバスタチンNa
カデチア	カムシア
カルデナリン	カンデサルタン
シンバスタチン	プラバスタチンNa
タシグナ	タルセバ
テルミサルタン	バルサルタン
ボナロン	ボノテオ
ミカムロ	ミコンビ
ラニチジン	ラフチジン
ラベプラゾールNa	ランソプラゾール
ロフラゼプ酸エチル	ロラゼパム
外用薬	
アイファガン（点眼）※2	アゾルガ（点眼）※2

※1 名称の違いを示すため、販売名を記載した。

※2 外用薬は、剤形を追記した。

図表Ⅲ-1-11 漢方製剤の組み合わせ（その他）

漢方製剤名	漢方製剤名
五苓散	五淋散
芍薬甘草湯	当帰芍薬散

（注）漢方製剤はいずれも主な薬効が「漢方製剤」であるが、実際にはそれぞれ効能、効果が異なる。

3) ハイリスク薬の事例の分析

頭文字が2文字以上一致している薬剤の事例118件の事例とその他の事例29件を合わせた147件の事例の中から、ハイリスク薬に関する事例を抽出し、主な薬効が異なる薬剤の組み合わせを示す。

図表Ⅲ-1-12 主な薬効が異なる薬剤の組み合わせ（ハイリスク薬）

分類	ブランド名または 一般的名称	ブランド名または 一般的名称
頭文字2文字以上一致	アテノロール	アテレック
	クロピドグレル	クロルマジノン酢酸エステル
	プラザキサ	プラビックス
その他	タモキシフェン	ラロキシフェン塩酸塩
	テオドール	テグレートール
	トニール	トフラニール

6. まとめ

頭文字が2文字以上一致している薬剤およびその他の事例を名称類似に関する事例として集計を行い、薬剤の組み合わせをまとめた。さらに、それらの事例の中からハイリスク薬の事例を抽出し、主な薬効が異なる薬剤の組み合わせを示した。

名称類似に関する事例は継続して報告されている。その中でも主な薬効が異なる薬剤の組み合わせやハイリスク薬の組み合わせは、患者に与える影響が大きくなる可能性があるため、特に注意を要する。薬局や製薬企業において、名称類似による医療事故の発生や再発を防止するための取り組みに本年報で分析した結果を活用していただきたい。